



「道の駅」第3ステージ 中間レビューと今後の方向性 概要（案）

「道の駅」第3ステージ推進委員会 令和6年●月

I | 背景

○第3ステージ開始以後に生じている社会情勢の変化や、政府計画への「道の駅」の位置づけ内容への対応が必要

新型コロナウイルス感染症 / 能登半島地震 / 物流の2024年問題 等
2040道路ビジョン / 国土形成計画 / WISENET2050 等



II | ここまでの「道の駅」施策の中間レビュー（全体の底上げに向けて）

地方創生・観光の拠点機能

（時代への適合 / 多様な地域ニーズへの対応）

- ・リニューアル需要の高まり
- ・物流の2024年問題やドローン配送など社会課題への対応
- ・車中泊ニーズへの対応
- ・時代に合わない施設配置や施設構成への対応
- ・現場ごとに多様な個別的課題への対応

時代に合わせた柔軟な「道の駅」の活用が必要

具体的な取組

- 施設配置の自由度を高める運用や制度の見直し
- 時代に合わせた『「道の駅」登録・案内要綱』の見直し

防災拠点機能

（能登半島地震で得られた教訓や課題）

- ・広域的支援や高付加価値コンテナ活用の有効性
- ・「防災道の駅」や高付加価値コンテナの数的不足
- ・高付加価値コンテナの手配や輸送の滞り
- ・「防災道の駅」以外の「道の駅」の脆弱性
- ・拠点として活用する際の機動性の低さ

災害時に国の意志が反映できる体制強化が必要

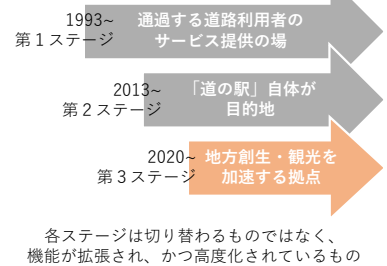
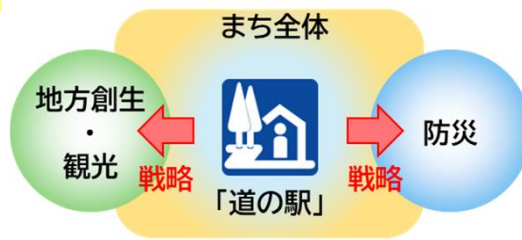
具体的な取組

- 戦略的な「防災道の駅」の配置と追加選定
- 災害時に国が迅速に「道の駅」を活用し支援を行う仕組みの構築

III | 「道の駅」第3ステージの姿

「道の駅」単体から まちぐるみの戦略的な取組へ

「道の駅」第3ステージとは
「まち」と「道の駅」が一体で戦略的に連携して
コンセプトの実現を成し遂げる取組



IV | 今後の方向性 ～ 第3ステージを応援するための取組～（第3ステージの突き抜けに向けて）

○まちぐるみで戦略的に取り組む自治体と「道の駅」を応援するための仕組みを新たに提案

第3ステージ実現のために （モデルプロジェクトの知見）

顧客視点での分析

まちぐるみの議論

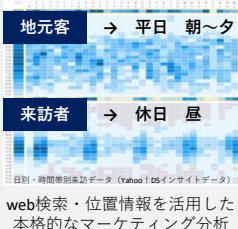
地域価値の再定義

第3ステージ
実現

国・連絡会
による支援

戦略的な「しかけ」の実施

【茂木町の事例】



多様な主体の垣根を越えた体制により
従来の「道の駅」の枠を超えるアイデアを実践



「道の駅」の新たなコンセプトを
茂木町自体のコンセプトとして更新

リニューアルを契機に

「道の駅」空間で 「まち」を体現

- ・移住相談窓口などの役場機能
- ・まちの魅力を発信する場
などを「道の駅」に設置することを検討

（第3ステージ実現に必要な要素）

- ・「道の駅」以外を含む地域横断体制でのコンセプト共有
- ・「まち」と「道の駅」で共通したブランディングの実践
- ・明確な役割分担に基づく持続可能な推進体制の構築
- ・首長の参画による「まち」全体で一貫した方針の堅持

（仮称）「道の駅」第3ステージ応援パッケージ

○第3ステージを強力に推進する意思を持つ「道の駅」に対し、中央官庁横断体制での重点的な支援や、専門家等のアドバイザー派遣など、国による新たな支援の枠組みを創設

まちぐるみでの
推進体制の確保

公募

関係省庁や有識者
による選定

伴走型支援
の実施



「まち」と「道の駅」が一体の「まちぐるみ」の取組

各省連携の支援

全国道の駅連絡会の支援※

予算措置

制度活用

ワンストップ
相談窓口

アドバイザー
派遣

※支援強化に必要な全国道の駅連絡会の体制強化もあわせて推進